

令和元年度 第3回我孫子市小中一貫教育推進委員会 議事録

開催日時： 令和2年2月17日(月) 15時～16時30分

開催場所： 我孫子市教育委員会 大会議室

出席者： 我孫子市教育委員会教育総務部長

我孫子市小中一貫教育推進委員8名(2名欠席)

我孫子市教育委員会小中一貫教育推進室長及び推進室事務局2名

傍聴人： なし

1 内海崎委員長 挨拶

今年度は今回が最後の推進委員会。我孫子市小中一貫教育基本方針の改訂版については、いいものができている。今回も忌憚のない意見をお願いしたい。

2 議事

(1)「我孫子市小中一貫教育基本方針」について

○本日ここで最終確認をし、この後の定例教育委員会で承認を得、決定という運びとなる。

○前回からの変更点は次のとおり。

- ・小中一貫教育の定義において、その制度分類がわかりにくいとの声があったので、「小中一貫教育を行う公立学校の分類(制度面)」の表を追加した。
- ・我孫子市の小中一貫教育の形態が運用上の小中一貫教育を選択していることについて、「学習指導要領の基準の中で緩やかに、様々な取組みが行えるよう、従来の小・中学校による運用上の小中一貫教育を推進していく」と説明する文章を追加した。
- ・小中一貫教育のねらいにある「小中の協働」について、その意味を用語解説に付け加えた。
- ・目指す子ども像のうち、「『ふるさと我孫子』を愛し、誇りに思う子ども(郷土愛)」の後期(中学校段階)の目標の中に、欠けていた要素「発信力」の部分を「自分の思いを他者に伝えることができる」として追記した。
- ・「学力」の用語解説については、新学習指導要領の定義に基づいて記載した。
- ・小中一貫教育推進の方法について、「『授業内容』でつなぐ」を「『学習』でつなぐ」とした。
- ・具体的な小中一貫教育活動の内容について、大きく2つに分け、「我孫子市の共通カリキュラム」と「確かな学力の育成と、個の教育的ニーズに応じた特別支援教育」とした。このうち、「共通カリキュラム」は、我孫子市のオリジナル性を打ち出すため、「Abi-ふるさと」と、「Abi-キャリア」の大きな2本の柱と、その土台となる「Abi-道徳」「Abi-English」「Abi-ICT」の3つの分野で整理し、5つのカリキュラムとした。特別支援教育については、個に応じる内容として、学習指導要領に基づく確かな学力の育成と同様に脇柱に位置づけた。カリキュラムとしては作成しないが、資料を添付する予定。
- ・我孫子市の小中一貫教育のグランドデザインについて、小学校と中学校の接続の部分がわかりやすくなるよう、レイアウトを変更した。
- ・我孫子市の小中一貫教育推進組織については変更していない。今後必要に応じて、見直し、変更をしていきたい。

○学校へは1部、文書として配付する。また、データでも配付予定。

【協議】

○「小中の協働」について

- ・用語解説に入れるのであれば、出典、根拠を他の用語と同じようにつけるか、または我孫子市の見解とするのか。後者であれば、他の用語とは別枠にした方がよい。用語解説には、公的根拠のあるものの方が報告書などの場合にはよい。
- ・用語解説には含めず、「小中の協働」という言葉のそばに記載するようにする。

○我孫子市小中一貫教育の全体図における「共通カリキュラム部」の部分について

- ・特別支援教育部会が入っているが、カリキュラムは作らなくても、存続させるのか。
- ・特別支援教育については、カリキュラムとしてではないが、資料を入れたいと考えている。これを検討、作成するために部として入れるかどうかというところ。
- ・カリキュラムを作るのではない以上、また重点とする程度であるならば、他の部分に吸収させてもよいのではないか。
- ・外して、どこに入れるか。教育委員会の役割の中にも「特別支援教育」が入っているので、カリキュラム部の中に入っていないかともよいと思う。
- ・特別支援教育部会は「共通カリキュラム部」から削除する。
- ・表記の仕方だが、統一性を持たせた方がよい。「キャリア教育部会」とするならば、「ふるさと教育部会」「道徳教育部会」とすべきではないか。または、Abi-〇〇で統一する。
- ・グランドデザインと表記(Abi-〇〇)を揃えた方がわかりやすいと思う。
- ・Abi-〇〇の表記で統一する。

○学校支援地域本部と地域学校協働活動本部の関係や、名称について

- ・我孫子市では、学校支援地域本部として進めてきたが、国は地域学校協働活動本部を打ち出している。今後我孫子市としてはどうなるのか。
- ・国はコミュニティスクールの制度に移行する動きとなっている。補助金もコミュニティスクールの設置に向けて動かないと出なくなってしまう。そこで、令和3年度からは、中学校区ごとに学校運営協議会を設置していくという案はある。
- ・組織について変更の可能性があるということか。
- ・ある。
- ・布佐中学校区では、地域学校協働活動本部の名称でやっている。
- ・小中一貫教育が核となって、地域との連携も進めていくかたちとなるのか。
- ・名称については、その内容や意義づけが同質のものであれば、自治体によっていろいろな名称がついているという状況。
- ・実態がそうであればよいということである。

(2)「Abi☆小中一貫カリキュラム」の改訂について

○令和2年度を改訂作業期間とし、令和3年度の中学校の新学習指導要領実施に合わせて試行、令和4年度から実施としたいと考えている。また、検証・見直しを行いながら、進めていきたい。各部会については、担当指導主事を中心に進めていく。必要に応じて、部会に学校から教員を集めて検討

することも考えている。

【協議】

○カリキュラムの作成に当たって

- ・道徳については、これまでのものを見ると、指導案がそれぞれに掲載されていたが、発達段階や学習の系統のつながりが見えにくかった。どの段階で、何を学び、どうつながっていくのか、系統図や独自にわかるものが必要だと思う。カリキュラムは、その流れがわかるように工夫するとよい。教員だけでなく、子どもも、保護者も学びを「見通すこと」ができるようにお願いしたい。
- ・どの分野においても、「Abi-ふるさと」と、「Abi-キャリア」の2本の柱とどう関わるか示せるとよい。
- ・教科との関連がわかるようにしたいと思う。
- ・カリキュラムの作成は、学校が中心となっていくものだが、市で作成するモデルカリキュラムがあると、そこに入れ込みながら作成することができる。
- ・「カリキュラムの系統性」と「学習指導要領全体を見通した『学校カリキュラム』のモデル」が必要。
- ・学校で活用してもらえようように作成したい。
- ・「Abi-ふるさと」には「我孫子の先人たち」について学習の割当て(学年配当)があるが、道徳で扱ってもよい。今回の方針の改訂で「Abi-道徳」が土台にきたのは、教科化され教科書ができたことによるところだったと思う。その教科書の中に郷土愛の学習教材が出てくるが、これを「Abi-道徳」で我孫子の先人たちに入れ替えて学ぶということ。大切なのは、つけたい力を目指して整理していくこと。
- ・「Abi-English」ならば、学習指導要領に示されていない、小学校1, 2年生については我孫子市独自のカリキュラムで実施し、小学校3年生以上については、これまで我孫子市が取組んできたものを補助教材として使用することを目指している。
- ・「我孫子の先人たち」からの学びが、キャリア、すなわち生き方とつながってくるように整理することが必要。そのつながりを可視化できるようにする。
- ・地域の教育委員会の実践として、これができたらとても価値のある実践となる。地域教材と学習指導要領を結びつけたカリキュラムは、素晴らしい試みだと思う。

○幼保小連携との関連について

- ・小中一貫教育の土台部分に位置付いている幼保小連携についてだが、現場で、特に小学校高学年においては、意識できていない。これを小中一貫教育と結びつけていければよいと思うが、どうするのか。
- ・幼保小との結びつきについては、ねらいの中には示されていない。小中の協働にとどまっている。たとえばスタートカリキュラムやアプローチカリキュラムなど、入れていくかどうか。
- ・幼保小連携については、行政組織の壁がある。幼児教育から小学校教育の接続は、とても大切。特に幼児教育の豊かさや手立ては、小学校教育においても参考になる部分が大いにある。
- ・園から学校への引継ぎは行っているが、児童の実態をとらえきれていないことがある。園での子どもたちの姿をもっと理解したい。いろいろな教員が関わってくれればと思う。
- ・園と学校では、やはり大きな段差がある。視点が違う。学校は指導、園は支援という視点から、子どもたちを見ている。
- ・我孫子市では、幼保小連携についても取組んできている。幼保小連携・接続カリキュラムでは、小中一貫教育の目標から、さらに幼児期から小学校への接続期に身に付けさせたい生活面の力もあわ

せて、目指すこどもの姿を設定している。ここに、今回の学習指導要領、保育指針、教育要領の改訂で示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を組み込んで、今年度カリキュラムの改訂を行った。それぞれの園、学校のカリキュラムがあり、支援や指導の在り方はそれぞれだが、子どもたちの姿でつないでいくことがまず大切だと思っている。

- ・幼保小連携、小中一貫については、さまざまな会議や集まりの中でも出てきている。療育・教育システム会議でも、窓口が一本化できるとよいという話が出ていた。それぞれ、個々に出てきているもの（意見や要望）が一緒に考えていけるとよい。0歳から高校まで、子どもたちの育ちを見据えていけたらよい。
- ・幼児のときの気になる行動が、中学校に入ってから問題行動の芽になっていることが大いにある。継続的に手をかけていけば防ぐことができるのではないかと思う。また、この連携により、中1ギャップの防止にもつながる。思春期の課題と、幼児期の育ちの関連は大きい。
- ・中学校が幼児期の子どもの育ちを学ぶことはあるのか。
- ・中学校の教科等の学習の中にある。実際に園に行くと保育体験を行うと、生徒の変容や新たな発見があり、その効果を感じている。
- ・市内の幼稚園、保育園等、それぞれ特色があり、教育や保育の内容もそれぞれである。そんな子どもたちが小学校で混じり合ったときに、自分の子どもが他の子どもたちとうまく関わられるのか、保護者としては不安がある。
- ・地域の園、学校の職員が、それぞれの園、学校を実際に見に行く取組もある。
- ・我孫子市の小中一貫教育グランドデザインの説明文章の中に、幼保小連携について土台をつくる取組の一文を入れてはどうか。
- ・グランドデザインの図だけではつながりが見えないので、文章で示せるとよい。

○「キャリアパスポート」の位置づけについて

- ・キャリアパスポートを4月から導入することになっている。小中学校の間で、どうしていくのか。Abi-キャリアとして計画を立てているのか。各学年で5枚程度と示されているが、Abi-キャリアの項目として〇〇と〇〇と〇〇は必ずキャリアパスポートに入れ、残り2枚は中学校独自で、というようなかたちにはならないか。
- ・前回の校長会で9年間の流れを提示した。その例に、学校独自のものをプラスしてもらえればよい。
- ・ある程度、共通項を柱として入れてほしい。その方が、具体的に取組めると思う。

(3)今年度の小中一貫教育について

- 中学校で、子どもたちが生き生きと活動している様子から、効果が見られている。15歳の姿が実現できる中学生へとつなげられるよう、小学校でも取組んでいく。
- 小中一貫教育については、学校からの手紙があり、わかりやすかった。学区で授業を行う様子なども見られ、進んでいる印象を受けている。
- 保護者として、学校がやっていることで知らないこともある。知ってもらえるように、保護者側からも啓発できるようにしたい。また、関心はあっても、子どもからだけでは情報が十分に得ることができないこともあるので、親が直接情報を得られるように、伝えていきたい。
- もっと保護者に浸透していくといい。もっと身近に感じられるよう、外に出すこと、広報活動が必要だと感

じている。ランドデザインは、素晴らしいものができたので、ぜひ広めてほしい。

○環境・学習・人でつなぐというのが、わかりやすくてよい。特に人という部分では、他自治体で取組んでいる兼務教員による活動が魅力的だった。中学校の教員が、小学校で T2 として授業に入り、中学校では T1 として指導していた。小学校の学習と直に関わり、中学校での指導に生かすことは、学力向上につながる。現場でも、絶えず工夫していきたい。

○今回の我孫子市小中一貫教育基本方針の改訂にあたり、いいものができたと思う。現場で絵に描いた餅にならないよう、周知、徹底、広報が大切だと考えている。我孫子市に魅力を感じ移り住んでもらえるようになったらと思う。

○我孫子市の方針をもとに、中学校とつながっていききたい。また、質的な差が出ないように中学校区の小学校同士でもしっかりとつながっていききたい。

○これまで、長く我孫子市の小中一貫教育推進に関わってきた。ここまで作り上げてきたことに敬意を表したい。今度は、これを実践していくにはどうするか、というところ。やったことに対して記録をとる。実践する前の予想に対して、どんなことが起きたか結果を集めること、それが次につながる。記録のフォーマットを作っておくとよい。記録をとる項目を決める。メモでもよい。たくさんあると大変なので、絞り込んでおくことも大切。今回はアンケートというかたちをとったが、記録を積み上げてバックグラウンドとして、見直しや改善を図っていくようにする。今後の課題は、幼保小連携とのつながりと、記録の部分である。ぜひ、進めてほしい。

3 おわりに（内海崎委員長より）

この小中一貫教育推進委員会では、いつも参加者の皆様から「子どもたちを育てよう」「いいものをつくろう」という思いが伝わってきた。とても素晴らしいことだと思う。ぜひこれからも、我孫子市の子どもたちのために、ご協力をよろしくお願いいたします。